

東海聖書神学塾

塾報

2015年 7月

第61号

460-0022

名古屋市中区金山2-1-3

金山クリスチャンセンター3階

☎・FAX 052-321-7516

E-mail tokai.seisyo.singakujuku@gmail.com

http://ttsjpn.org/



「東海地区と日本の伝道と教会形成のために」

東海聖書神学塾 塾長

後藤喜良

(ニックネームはペンギン)

昨年夏発行の塾報の巻頭言では、東海聖書神学塾の30周年記念事業について書かせて頂きました。その後、運営委員会は、記念誌編集委員会を立ち上げ、記念集会の準備を始め、カリキュラムの再編成に着手し、東海地区で労しておられる牧会者のための「アドヴァンス・コース」を、予想を超える20名の参加者を与えられてスタートしました。計画しております30周年記念事業を、教会の主の導きによって、全て実現することができまようにお祈りくださり、ご協力くださいますよう心からお願い致します。

「30周年記念誌」のタイトルは、10周年と20周年記念誌と同じ『フロンティア』にするように編集委員会に伝えました。私たち東海聖書神学塾は、常に、フロンティア・スピリットに燃えているからです。東海地区は、小さい者が開拓伝道を始めた40年前に「福音の谷間」と呼ばれていた状況から、殆んど変わらず、40年間、人口何人に対して一つの教会があるかという「人口比教会数」で、愛知、岐阜、三重の三県はワースト10の中に入ったままです。東海地区は今も、フロンティア＝開拓期です。プロテスタント宣教150年の今日でもクリスチャンが人口の1%未満で、教会数が郵便局の三分の一程という現状は、日本の伝道と教会形成も、今なおフロンティア＝開拓期であることを示しています。私たちは、他の神学校にはないコースを幾つも開拓して来た、日本で一番小さな神学校として、主イエスの再臨迄、開拓者魂に燃えて、東海地区と日本の伝道と教会形成のための奉仕に邁進していかなければなりません。

私は、神学塾が30周年を迎えた今年4月から、塾長の奉仕を正式に始めさせて頂きましたが、この春丁度、私は、「フリーター牧師」になりました。これによって私は、多くの東海地区と日本各地の教会での奉仕、また神学塾での今迄の2倍の奉仕が可能になりました。これは、教会の主の奇しい導きであると思います。私は、今年の元旦、40年以上続けている「再献身式」で、例年通り礼拝堂の祭壇の前にひれ伏して、改めて、東海地区と日本の伝道と教会形成の奉仕のために、私の全てと今後の人生を、憐み深い主に献げる祈りを致しました。主のしもべの中で最も小さい人よりも小さいしもべが、聖霊に満たされ、み言葉に従って、主から与えられた使命を果たして、神の栄光を現すことができるように、お祈りくださいますよう心からお願い致します。

行事予定

「公開講座」＝7月20日(月・祝) 10:30～15:00 会場＝金山キリスト教会

主題＝「聖書眼鏡で改憲問題を読む」 講師＝水草修治師

講演①＝「憲法と王と平和」 講演②＝「日本国憲法制定のプロセス」

「30周年記念集会」＝11月23日(月・祝) 会場(予定)＝栄聖書教会



教職志願者コース
山本圭介

私は、2002年にワーキングホリデーという制度を利用して、カナダに滞在した際に初めてキリスト教に触れ、主の不思議な導きによって、頑なな心が変えられ、救われました。その後、躓き離れそうになったこともありましたが、ただ、主が私を離さずについて下さったことに感謝します。また、以前日本で神学校に行き、失敗、挫折を繰り返しながらも、主の守りの中で、もう一度東海聖書神学塾で学ぶ機会が与えられた事には、感謝と畏れしかありません。私の様な者がまた神学生として学んで良いのだろうか、何度も考え迷いましたが、私の主なる三位一体の神が全てを知り、計画し、備えておられる方であり、私が失敗や挫折を繰り返す中でも、必ず慰め、助けて下さるお方であると信じ、神学塾での学びに励んでいきたいと願っています。



教職志願者コース
吉村俊輔

信仰の決断後、大きな責任を感じ、救われた喜びより救われていない周りの人々に対しての思いをきっかけとして、もっと神学や弁証論を身につけたいと思いましたが、はつきりしませんでした。通読の際に御言葉を与えられました。「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。」人間が造った国境など関係なく、イエス・キリストの使節として全世界に出て行かなければなりません。東海聖書神学塾へ通った方から、塾を紹介されました。教務の方に時間をとっていただき、詳しく塾について説明していただいた後、神様から平安を与えられました。様々な立場の教えを期待できることがとても幸いなことです。意見が分かれてもイエス・キリストによって一つになっていらっしゃる牧師から学ぶことは恵みです。



信徒奉仕者コース
伊藤和人

東海聖書神学塾は、牧師や信徒伝道者を志す人が学ぶところという認識で、祈る対象ではあっても、まさか自分が入塾して学ぶことになるとは想像もしていませんでした。ところが、忘れもしない2月16日、場所は福音自由教会協議会総会、S師との交わりの中で、「教会教育です！しつけです！」と言われたのが私の魂を揺さぶりました。「そうだ。教会学校校長を目指そう。教会学校教師になって子供から大人まで教会教育をしっかりとれるように。その為には先ずもって自ら学ぼう。」思ってもみない上よりの志でした。公立小中学校の教師ではあっても、CSの教師だけはできるだけ避けてきました。でも、もう逃げられません。主の教会をたてあげる為の教会教育にしっかり取り組ませていただけるよう、祈りつつ学ばせて頂いています。週2回の夜の学びは目から鱗の連続。今日はどんな学びになるだろうと、ワクワクする時間になっています。主の御名はほむべきかな！



信徒奉仕者コース
小林孝雄

今回、東海聖書神学塾への入塾の恵みが与えられたことに感謝します。救いを得て、生まれ変わった私に与えられた神様からの使命は、社会では障がいのある子供たちの教育、教会ではCS教育でした。子供たち、親、先生方と共に多くの喜びや苦しみ、悲しみを、主と共に経験させていただきました。そこで「主と共に生きて働いてくださる」ことを何度も経験する中で、「主は生きておられる」ことが信仰の目を通してわかりました。「この最も小さいものにしなかったのは私にしなかったのです。」マタイ 25・15-45

塾で、聖書の学びを深め、神の御臨在のもと、キリストが「最も小さいもの」といわれる人々への働きへの使命を深め、そのお働きの一つの恵みにあずかることができるように祈ります。



信徒奉仕者コース
相楽綾子

教会学校育ちの私の教会生活は、教会学校を抜きにしては語れない部分がたくさんあります。高校卒業後の19歳から39歳まで教会学校の奉仕に携わってきましたが、様々な事情でピリオドを打った時には、もう二度とこの奉仕をすることは無いと思っていました。それが、約8年の空白の時を経て、再び携わることになったのは、2013年の夏のことでした。親子ほど年齢の離れた中高生と接するようになった時、ひとりひとりの心に蒔かれている福音の種を、腐らせず、枯らさないようにするために、自分に出来ることは何かということを考え始め、祈る中から「神学塾で学ぶ」という道が与えられました。私には教会学校の奉仕が自分の賜物だと言い切る自信はありませんが、今は、今後もそこに留まることが許され、その環境を最大限に活かすことができるように「知恵」と「知識」を学びたいと願っています。



信徒奉仕者コース
横江尚道

ある夜聖書を読んでいますと、ローマ書10章12節（「・・主を呼び求めるすべての人に対して恵み深くあられるからです・・」）から圧倒的な力で迫ってくるものがありました。私は最初何が起きているのか、全くわかりませんでした。10章14節（「・・宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。遣わされなくては・・」）まで読み進み理解しました。神様が呼んでおられると。私は「なぜ、私を呼ばれたのですか」、「私でいいのですか」、「誰に伝えるのですか」と祈り尋ねました。すると、お答えがありました。「悲しむ者は幸いです」と。私はこの御言葉を聴いたとき、こころに病のある方々が思い出されました。私は、この御言葉を本当に知りたいと思いました。この御言葉をこころに病のある方々と共に生きたいと思いました。この御言葉が真実であることを、神様が教えて下さると信じました。そして、東海聖書神学塾の信徒奉仕者コースへの召命を受けることを決意しました。



女性奉仕者コース
鈴木綾子

イエス様を自分の人生にお迎えし歩み始めてから、私にとってはとても大きなチャレンジをいただきました。それにより、これでもかというほど泣きました。自分はこんなにも弱くて情けない人間なのだ。どうしようもない状況の中ではじめて心から神様にすべてをお委ねして大きな一歩を踏み出すことができました。そこから神様は私を少しずつ強め、またそれまでに勝る祝福と恵みを溢れるほどに与えてくださいました。それは今も続いています。泣き虫で弱虫で自分の足で歩けない程だった私が、ただ神様のご愛によって、また牧師夫妻の大きな励ましと祈り、教会の家族の支えによって入塾させていただけるまでになったこと、驚くばかりの恵みです。このような小さい者ですが、神様の必要のために、教会のために用いていただけたら幸いです。

『私は私を強くして下さる方によってどんなことでもできるのです。』ピリピ4：13



女性奉仕者コース
田村江利子

私は二十歳の時、教会へ導かれ、聖書の神様に出会い、罪を示され、救いはイエス様にのみあると信じクリスチャンになりました。その後、神様から与えられた多くの恵みは、かつての私にとって予想し得なかったものでした。けれどその一つ一つに神様が伴って下さり、愛と憐れみの内に丁寧に関わって下さっていました。今回女性奉仕者コース入塾への揺れ動く思いも、神様は丁寧に扱って下さり、様々な思い煩いを一切委ね、何者でもないこのような者をここまで忍耐を持って導いて下さった主に祈る中で、与えられているこの時に一歩踏み出す思いが示されました。学びを通してどのように仕える者とされるのか神様のお導き・みこころを祈り求め、主のご入り用に「はい」と従っていく準備をしていきたいと思えます。祈り支えて下さっている教会の兄姉、家族に心より感謝します。「わたしは、あなたがたに悟りを与え、行くべき道を教えよう。」詩編32：8



女性奉仕者コース
山内幸子

Jesus said, "I am the light of the world. He who follows Me shall not walk in darkness, but have the light of life." John8:12 この御言葉によって闇の中から助けだされ、光の中を歩む者とされた時に、この素晴らしい救いを人々に伝えなければならないと強く思いました。しかし未熟な信仰と古い罪の性質ゆえに自分のやり方で歩みながら私を、イエス様は忍耐強く忠実にご自身の方法で歩むようにと導いてくださいました。今年度から神学塾での学びを許されたことは、その途上にあることだと信じて入塾させていただきました。主イエス様をもっと深く知りたいと思えます。そしてイエス様の御愛を伝える為の良き器として整えられたいと願っています。



入塾式 4月10日



春のリトリート

行事報告

- 2月3日(火)、恒例の女性公開講座が名古屋一麦教会を会場にして持たれました。聖書宣教会教師であり当塾の講師でもある赤坂泉師が「『関係』に生き、『関係』を活かす」の題で講演してください、約100名の参加者がありました。
- 3月13日に、夕方の卒業式を前にして理事会、評議員会を開きました。長年教師としてご奉仕くださった水上勲師と富沢誠治師の退任が報告されました。
- 3月23～24日、レークサイド入鹿にて持たれた教師一泊研修会では、中島真実師と鴨下直樹師の発題によって12名の教師が研修しました。
- 4月29日(水)に栄聖書教会を会場に持たれた「CS 教師研修会(一日神学校)」では、教理『救済論』をテーマにして渡辺睦夫師ほかの教師がご奉仕ください、約180名が学びました。
- 夏季伝道実習(7月2～5日)では、同盟福音・三好キリスト教会(鴨下直樹牧師)と聖協団・名古屋グロリアス・チャペル(岡本伸之牧師)とJ.E.C.A・栄聖書教会(末松隆太郎牧師)が塾生たちを迎えてくださいました。

(塾生主任・河野勇一)

教務報告

- 「収穫は多いが働き手は少ない。だから収穫の主に、収穫のために働き手を送ってくださるよう祈りなさい。」マタイの福音書9章38節
- 今年度より女性奉仕者コースが再開されました。また、牧師の継続教育のために「アドヴァンスコース」を開催しています。そのため、今年は信徒奉仕者コースに4名、教職志願者コース2名、牧師夫人講座に2名、女性奉仕者コースに4名(内1名休塾中)、アドヴァンスコースに20名の塾生があたえられました。感謝です。

(教務主任・鴨下直樹)

2016年度塾生募集

- 東海聖書神学塾のコースは以下の5つです。
 - 教職志願者コース「牧師、宣教師等に召された人のため/週2、3日の学びで4年程」
 - 信徒奉仕者コース「信徒牧会者・信徒伝道者等のため」
 - * 週2日、昼または夜だけの学びの場合は4年程、昼夜の学びの場合は2年程で修了
 - 女性奉仕者コース「教会の女性奉仕者のため/毎週の金曜日の学びで2年」
 - 牧師夫人講座「牧師や宣教師夫人だけのため」/隔週の金曜日の学びで2年」
 - アドヴァンスコース「牧師(神学塾の卒業生含む)/毎月一度月曜日の学びで1年単位」
 - * 入塾願書をご希望の方は、郵便で当塾へご請求ください。「返信用の切手92円同封」
- 当塾は教会から推薦された献身者のみを受け入れる方針を堅持しておりますので、入塾希望者は必ず所属教会の牧師の指導を受けると共に、教会役員会で召命と献身を確認して頂き、教会全体の支援を受けて入塾できるように準備してください。
- 2016年度の入塾説明会は 2016年1月8日(金)2時～ と5時半～
 - 同 入塾願書の締め切りは 2016年2月19日(金)必着
 - 同 入塾試験(筆記・面談)は 2016年3月4日(金)1時～ (全員)